

熊本市内の 運転代行 適正化へ奮闘

パトロールなど自浄努力懸命

熊本市内の繁華街で運転代行業者による適正化の自浄努力が懸命に行われている。昨年2月に暫定スタートし、今年5月27日の第1回総会で正式に船出した「熊本市繁華街運転代行協力会」(小森田政憲会長)は、繁華街での代行業者の違法駐車車をなくそうと、

独自に購入した防犯パトロール車2台と写真機での夜間パトロールや、駐車場を借りて路上待機しないなど、全国でも珍しい活動を行っている。

40社以上あった会員数は31社まで減少。パトロールの回数も十分に行えていない。

この取り組みが効果を上げれば、代行業者自らが適正化に取り組むモデルケースとなる。だが、現状は課題が多い。同協力会の会員

繁華街で営業する代行業者は約120社あると言われ、活動の広がりがかぎとなる。小森田会長は「少数精鋭で精力的に活動し、長い目で見たメリットを理解してもらいたい」と決意を新たにしている。

同協力会の第1回総会には、池部正剛熊本北警察署長や、溝上義則熊本運輸支局長、全運協の丹澤忠義会長らが出席し、期待度の高さをうかがわせた。同協力会の今後の活動の成果が注目される。



事業者が、駐車場に随伴車を駐車する中、路上で待機する非会員の代行業者に客を取られるなどの事例が続出、「この活動をしても得にならない」「などの意見も。スタート時に

事業者が、駐車場に随伴車を駐車する中、路上で待機する非会員の代行業者に客を取られるなどの事例が続出、「この活動をしても得にならない」「などの意見も。スタート時に

同協力会の第1回総会には、池部正剛熊本北警察署長や、溝上義則熊本運輸支局長、全運協の丹澤忠義会長らが出席し、期待度の高さをうかがわせた。同協力会の今後の活動の成果が注目される。